

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	PONY		
○保護者評価実施期間	2025年01月01日		～ 2025年02月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○従業者評価実施期間	2025年01月01日		～ 2025年02月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○事業者向け自己評価表作成日	2025年03月01日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	通所と訪問の両方の支援サービスを提供している児童や保護者の困り感やニーズに対して包括的に支援を行うことができる。	訪問支援時に、積極的に園や学校の担任や園長・校長などと児童の近況についての情報交換を実施。園からの希望があった時には、園に所属する保育士に対して出張で研修を実施する等した。	すべての児童が「通所」「訪問」の両方の支援をしているわけではないので、こちらから利用を提案する。
2	療育プログラムの提供時間について、児童や保護者の困り感やニーズを鑑みて柔軟に対応している。長時間の利用も可能。	不登校等の学校への所属が困難な児童について、学校や保護者と連携を取りながらその児童に合わせた療育プログラムを提供している。	相談支援事業所に有効な支援プログラムについて、広く周知を行い、認知を拡大する。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保護者間の交流 地域の他の子どもとの交流	<ul style="list-style-type: none"> ■保護者間の交流について 昨年は、体制変更や馬の状態の影響から、家族参加のイベントを実施していなかった。 ■地域の他の子どもとの交流について 利用児童の療育提供時間を避けて、地域の保育園や学童などとの交流は行っていた。 利用児童との交流については、現時点はニーズがなかったことと、安全性を鑑みて、積極的に実施する必要はないと判断した。 	<ul style="list-style-type: none"> ■保護者間の交流について 長期休みや祝日などの保護者が気軽に参加できるタイミングで、家族乗馬や保護者の曳き馬体験などのイベントを開催する ■地域の他の子どもとの交流について 強いニーズがあれば実施を検討する
2			
3			